

科学技術振興機構が実施する「さくらサイエンス・ハイスクールプログラム」に本校2年生15名が参加し、インドの Jawahar Navodaya Vidyalaya, Bangalore Urban District (JNV校) の生徒15名と2日間にわたり交流しました。2校の生徒が協働して、SDGsをテーマに、2030年のより良い世界を描くワークショップに参加しました。



## DAY 1 1月27日(金)

アイスブレイクとして日本語とインドの Kannada 語で挨拶。

5人1組でブレイクアウトルームに分かれ、自己紹介。

「自国紹介クイズ」 互いの国の文化や魅力を伝える。

「My SDGs Show & Tell」 SDGsのゴールを意識して、日頃行っている行動を紹介。

JNV 校生からのクイズの解答「世界一高い銅像(182m) →

「こんにちは」 Namaste  
「ありがとう」 Dhanyavadagalu



始めに、6つのブレイクアウトルームに分かれて、同じグループの方と自己紹介を行いました。自己紹介では趣味や家族について紹介しました。次に日本とインドについてのクイズをお互いに出し合いました。インドの歴史や食べ物について学び、日本の国花や入学式の時期について教えました。SDGsのディスカッションでは今までの自分にはなかった考えもあり、とても勉強になりました。



世界で一番大きい銅像がインドの Statue of Unity であること、チェスの発祥がインドであることなど、自分が全く知らないインドの文化を知ることができた。また、SDGsの話においては、日本の人々は環境問題ばかりに目を向けている気がした。インドの人達はすぐに行動し、直接影響があるような行動、例えば孤児院への服や食べ物の寄付などを行っている。コンポストなど目に見える形での行動が多く、日本では意識改革が大きく謳われているが、実践的なことも行える環境にしたいと思った。どちらの国においても、小さいことを積み重ねることが必要だと思った。

インドの教育水準が高いことは知っていましたが、とても流暢な英語に改めて驚きました。また、普段質の高い教育を受けているためか、教育の大切さを主張している人が多かったように思います。飢餓や環境問題などの様々な課題について、何を解決するにしても教育が必要だと話していました。また、学校全体としての取り組みも盛んに行われていました。植物を植えたり、規則正しい生活を送ったりなど、SDGsの目標を達成するために個人ができる行動を生徒全員ができるような環境が作られているようです。



JNV 校生の中に、日本文化に興味があり、私が好きなアニメやゲームも同じように楽しんでいる人がいると分かって嬉しかった。SDGsに関しては、一高生の意見は節電やマイバッグの使用など個人的にできる「環境」に関するものであった。JNV校生の意見はゴミの管理や日本語を教えるといった、周りの人を巻き込んで行う様々な面に働きかけるものであった。

## DAY 2 2月1日(水)

2030年の自分を想像して、7年後の自分になりきって自己紹介。

「SDGsと私の国」 日本のSDGs 2・5・7に関する問題点や取り組みを紹介し、インドの問題点・取り組みを知る

「私たちが創る未来」グループで両国を比較し、各国が抱えている課題を解決するためのアクションを考え、協働でプレゼンテーションを準備し、他のグループに発表。

未来に向けて一人一人行動を発信！

記念撮影



2030年の自分の在りたい姿についての発表の際に、日本の大学に通いたいと話していたJNV校生がいた。東京か大阪の大学を検討しているようだった。自分達のプレゼンではSDGs 5のGender Equalityに絞って発表した。日本もインドもジェンダーギャップ指数はとても低く、雇用機会の不平等や性別役割分業の考え方などが共通点として挙げられていた。相違点では、インドには結婚の際に女性が大金を準備しなくてはならず、女性の方が不利な立場になることがあるようだ。

SDGs 2：日本は大きな飢餓問題はないが、輸入に食を頼っていて食料自給率が低い状態を改善すべきで、そのために“NIPPON FOOD SHIFT”という取り組みが行われている。インドは発展途上の地域があり、満足な食事を取れない家庭が多い。そのため政府は経済格差を補填する政策に力を入れている。



SDGs 5：どちらの国にも女性差別があり、女性の賃金や管理職の少なさなどの問題がある。特に、インドはカースト制度のなごりから、女性差別が深刻化している。

SDGs 7：日本は面積が小さく再生可能エネルギーの供給が少ない。火山の多さを利用した地熱発電の活用ができれば、再生可能エネルギー供給量が増えるのではないかと。インドも再生可能エネルギー開発に力を入れていて、特に太陽光エネルギーが注目されている。

2日目の終わりくらいにインドの高校生の英語に慣れてきて、できればもう少し話したかった。日本とインドでは文化や国の現状がそれぞれで、いつかインドを訪れてみたいと思った。SDGsについての話し合いの中で印象深かったことは、インドの識字率が70%にも満たないことだ。日本は中学校まで義務教育で多くの人が学校に通うが、インドでは家の手伝いや性別により学校に行けない子どもが多くいると聞き、学校で授業を受けることは当たり前ではなく、とても感謝するべきだと思った。これから、インドや世界中の子ども達が教育を受けられるようにするために、自分に出来ることを探したいと思う。インドの方とたくさん話し、インドのことを少し知ることができ、とても楽しい時間を過ごせた。

インドと日本のSDGs に対する現状と対策について詳しく知ることができた。インドでは飢餓にならないために、少ない量でも栄養価が高くなるように食事が考えられており、その食事を食べることで健康を維持できているということを知った。日本の「もったいない」という考えはインドの高校生にもとても気に入ってもらえたようで嬉しかった。エネルギーの課題については、インドは世界で5番目に電力を使っていることを初めて知った。両国とも、温室効果ガスの排出を減らすために、吸収量を増やすことで総和を0にしようという考えをしていた。